



普通作 水稲の刈取り前の管理について

農産課 佐伯



○収穫前の防除について

収穫前まで、いもち病、ウンカが発生する場合がありますので臨機防除をしましょう。
刈り取り前の農業防除は使用の制限(右参照)がありますので注意して散布してください。

いもち病…ブラシフロアブル(使用時期:収穫7日前まで)
トライフロアブル(使用時期:収穫14日前まで)
ウンカ類…スタークル液剤・粉剤・豆つぶ剤
(使用時期:収穫7日前まで)

効果的な本田防除のために

◎本田防除のポイントは、「**幼虫が多い時期を狙って散布すること**」です。どの農薬も、成虫に対する効果はほとんどありません。適期防除のため、以下の2点を散布時期の目安としましょう。

- ①ほ場で発生状況を確認!
トビロウカンの要防除水準は、**10株あたり:2頭超(8月上旬)、10頭超(8月中～下旬)**です。
- ②県病害虫防除所「**トビロウカン防除適期予測(予察情報)**」を確認!

飛来日	第一世代幼虫防除適期	第二世代幼虫防除適期
7月2日	7月20日～7月31日	8月17日～8月28日

★予察情報は、下記のHPで確認できます。

「熊本県病害虫防除所」 <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>

○落水について

落水期の目安は収穫前7日頃が理想です。早期落水は米の充実度が低下します。また、乳白米等の発生が増えて品質低下を招きます。出穂後30日以降の水管理は稲刈りに支障がない程度に水田を乾かしましょう。

○収穫について

- (1)収穫前
 - ①収穫前に雑穂や雑草(ヒエ、タカサブロウ、ミズガヤツリ、ホタルイ等)を確実に抜き取りましょう。
 - ②特に、稲こじ病に罹病した穂が部分的に見られる場合、次年度作の伝染源になりますので、刈り取り前に必ず抜き取りを行ってください。
- (2)収穫にあたって
 - ①収穫の目安として黄化粉85%以上で刈り取りを行ってください。
 - ②早刈りは青粉混入による品質低下につながるのを避けましょう。
 - ③水口や山陰等で生育が部分的に遅れている場合は、未熟粒(青粉)が混入しないよう別刈りなどを行ってください。
 - ④コンバイン、コンバイン袋、乾燥機の清掃を徹底し、異品種や異物等の混入防止に努めましょう。

果樹

10月の果樹園管理

営農指導課 村上



防除・施肥管理・栽培管理

品目	栽培管理	農薬・肥料	倍数・施肥量	対象病害虫・目的	
みかん	収穫	果実品質や着色基準を考慮しながら区分収穫を行いましょう。	クレント(年2回)	100倍	浮皮軽減
	夏秋梢の処理	着花量が少ない樹では夏秋芽が発生しております。そのままにしておくことと次年度が着果過多傾向になりますので10月下旬までに処理をしましょう。	ベフラン液剤25	2,000倍	貯蔵病害
	浮皮軽減対策	秋雨が多い場合はフィガロンやカルシウム剤の集中散布を行いましょう。	ベンレート水和剤	4,000倍	貯蔵病害
デコボン	秋は増糖を回る時期となります。10月上旬にはビニールの再被覆を行い、秋雨を入れないようにしましょう。未結果園については元肥として、果樹専用スペシャルを施肥しましょう。1年目は2袋、2年目は3袋、3年目は4袋を目安とします。	ナティーポフロアブル	1,500倍	黒点病	
梨	新興の収穫は満開から200日頃が目安です。黒星病が多発した園についてはキノンドーフロアブルを下旬にも追加散布し次年度産に向けた対策をしましょう。	リンクエース	1,000倍	光合成促進	
		ダニコングフロアブル	2,000倍	ハダニ	
柿	柿用カラーチャートを使用し、赤道面3.5の着色で収穫します。果実が傷つきやすいので、丁寧な取扱いを心がけてください。	キノンドーフロアブル	1,000倍	黒星病	
栗	晩成品種の収穫時期です。鮮度保持の為、気温の低い早朝に収穫をしましょう。	果樹専用スペシャル	100kg/10a(樹齢10年以上)	礼肥	
		粒状熊本くり有機特号	1.5袋(30kg)/10a(樹齢7年以上)	追肥	

※農薬使用・混用について不明な点がございましたらJA指導員もしくは営農センターにご相談ください。

農作業メモ



園芸

セルリー・苺の管理について

営農指導課 松本



《セルリー》

1. 苗床の準備・仮植

- ・苗納品前に苗床では遮光ネット60%～70%の被覆とサイドをあけ、風通りの良い涼しい環境を準備しましょう。
- ・セルリー200穴の苗が納品後、根の巻き具合を確認し、50穴または72穴(50穴が好ましい)へ仮植を行う。
- ・仮植後約1ヵ月での定植ですが、苗の乾燥状態を確認し、毎日灌水を行う。その際に必要に応じて発根剤等を活用する。

2. 圃場準備、定植

- ・堆肥投入後、施肥基準に従って基肥を施用後、畝立てマルチを行う。
- 単棟ハウス 5m間口 3畝 2条千鳥植え(12月上旬収穫までの作型)
- 連棟ハウス 5.4・6m間口 4畝 //
- 連棟ハウス 6m間口 5畝 //
- 定植遅れにならないよう注意する。
- ・10月上旬頃までは、圃場も60%～70%の遮光を行う。

3. 定植～生育期

- ・定植後、手灌水を行いその際には発根剤を使用し、高温時期には活着までの数日手灌水を行う。また、病害虫の防除を定期的に行う。
- ・下葉かぎ 目安 定植30日 1回目
定植60日 2回目

《苺》

1. 定植期の注意点

- ・定植苗の生育維持(花芽分化確認後の液肥施用)
- ・適期定植のために花芽検鏡をお願いします。
- ・活着促進(定植後1週間はクラウン部が乾かないように灌水する)

2. 病害虫の対策・予防

- ・ヨトウムシ・ハダニの発生が心配されます。防除はコテツフロアブルで行いましょう。定植時にはモベントフロアブルの灌注を行ってください。

3. 不時出蕾の対策

- ・定植後すぐに出蕾する花房は、着果しても品質(肥大性・食味)が劣るので、10月10日までのものは除去する。



畜産

育成牛における稲発酵粗飼料給与

畜産課 新崎



水田利活用向上・飼料自給率向上の観点から稲発酵粗飼料の生産が進められ、作付面積は飛躍的に上昇しました。ここでは、黒毛和種子牛育成での給与について給与例を紹介します。

① 養分要求量・給与例

成長期の子牛は養分要求量が多く十分な栄養分の摂取が必要となります。稲発酵粗飼料は粗蛋白質(CP)が低いので、給与する場合は濃厚飼料を補給しなければなりません。下記資料1は稲発酵粗飼料の標準的な給与体系と、多給体系の2つの給与例です。給与量(原物)は標準的な給与体系で給与開始時(4か月齢)で1.5～2.0kg、育成終了時(5.0～5.5kg程度給与可能)であり、多給体系では育成終了時(9か月齢)で6.0～6.5kg程度給与が必要となります。

② 給与上の留意点

- ・子牛育成期での給与に当たっては、粗蛋白質(CP)が充足できない時期があるため大豆粕等で粗蛋白質(CP)を補給する。
- ・TDN摂取量に注意し、粗飼料栄養価を考慮して給与する。
- ・水分含量は種々の条件によって異なるため、乾物率を測定し乾物としての摂取量を把握する。
- ・採食性を高めるため、15cm程度に細断して給与。

資料1 黒毛和種子牛へのイネWCS給与例

単位:原物kg/日・頭

体系	飼料	月齢				
		4	5	6	7	8
標準型	稲発酵粗飼料(i)	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5
	濃厚飼料(ii)	3	3.5	4	4.5	5.5
多給型	稲発酵粗飼料(i)	2	3.5	4.5	5.5	6.5
	濃厚飼料(iii)	2.5	3	3.5	4	4.5

- (i) DM45.0%, TDN51.0%, CP6.0%とした。また、給与量は目安であり不断給餌とする。
 - (ii) DM88.0%, TDN68.0%, CP15.0%とした。
 - (iii) DM88.0%, TDN68.7%, CP17.5%とした。大豆粕を濃厚飼料給与量の8%添加しCP割合を高めた。
- (参照)「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」JH24.3
社団法人 日本草地畜産種子協会



花き

菊の栽培管理について

営農指導課 宮木



害虫は、アブラムシやヨトウムシ等の花への混入が目立つ時期です。病害では黒斑・褐斑病を中心に予防散布を定期的に行ってください。

半電照菊は消灯前後の時期となってきました。上部のポリウムを出すため消灯後12日程度で再電照を行ってください。電照時間は深夜4時間程度で3～4日間点灯してください。また、早めにビニール被覆を行い、夜間は保温を行ってください。

年末電照菊は、草丈の確保が難しい圃場は早めにビニール被覆を行い、10月上旬にはビニール被覆を完了させてください。通常、年末電照菊の消灯時期は10月15～25日程度です。生育調整のためのジベレリンやわい化剤処理は消灯2週間前には終了してください。白サビ病は、薬剤による定期的予防や早い時期からの硫黄くん煙、また土壌水分等を確認していただき適期での管理作業をお願いします。加温機については早めに点検・清掃を行い準備してください。

※電照菊については、定期的に必ず電照の点灯確認を行ってください。